未来をつむぐ

Imagine the Future

MONEX 15th Anniversary
1999-2014
BOOK

15
Years Old!

MONEX GROUP
Monex Group, Inc.

IMAGINE THE FUTURE

MONEX 15th Anniversary
1999-2014

未来をつむぐ

15

Years Old!

MONEX GROUP
Monex Group, Inc.

MONEX 15TH ANNIVERSARY

MATSUMOTO OKI MESSAGE

MONEX 15周年を迎えて

映画「２００１年宇宙の旅」の主人公であるコンピュータＨＡＬが、ＩＢＭのひとつｆｏｒｗａｒｄの文字で綴られ一世代未来のコンピュータを表していたように、未来の金融サービスを創ろうという思いでＭＯＮＥＸを命名し創業してから早15年が経った。

４人で始めたド・ベンチャー企業は、世界に12拠点と１０００人の同僚を持ち、１５０カ国に顧客を持つグローバル企業になった。

１００万人以上のお客様にサービスを提供し、多くの社員と家族の生活を支え、各国に税金を納め、様々な形で社会に貢献できるようになった。

５年前の創業10周年時、当時はまだ日本だけで活動していた時代に、お世話になった方々をお呼びしてささやかなレセプションを開き、そして社員のために10年を振りかえる本を作った。

この５年間で、ＭＯＮＥＸはまた大きく広く、その形を変えてきた。

私たちは過去に囚われてはいけない。

しかし二度と戻ることのないＭＯＮＥＸの記憶を紡いで語り継いでいくことは、ＭＯＮＥＸの全てのステークホルダー、即ち社員とお客様と株主と社会にＭＯＮＥＸという企業の人格を理解してもらう上で大きな意味があり、そしてＭＯＮＥＸが今後も冒険して成長していく際に、その道を照らす一助になるのではないかと思った。

ＭＯＮＥＸ 15周年。

物語は始まったばかりだ。

マネックスグループ株式会社
代表執行役社長CEO
松本 大

もくじ

Contents

MONEX 15th Anniversary
1999-2014
BOOK

02 MONEX 15周年を迎えて

04 もくじ

06 特集1
未来の話
社員の妄想

24 特集2
今日までの話
実績／GLOBAL VISIONについて／漫画 STARTLINE

54 特集3
数字で見るマネックス
男女比／拠点別従業員数／育児休業復職率／メールマガジン数／セミナー回数&人数

60 特集4
広告で見るマネックス

68 特集5
歴史で見るマネックス

70 特集6
そとから見たマネックス

78 最後に

SPECIAL ISSUE
01

未来の話
Imagine the Future

マネックスはこれからどんな進化を遂げるのだろう。
その方向性を決めるのは、今かかわるメンバーの振る舞い。
どんな環境で、何を考え、どう行動するのか。
だからみんなで、未来の話をしよう。

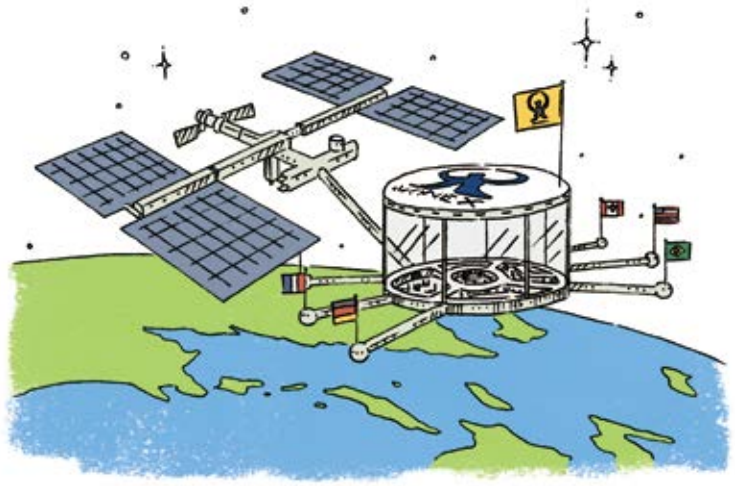
ここで紹介するのは、マネックスの社員が想像した
近未来のマネックス。
みんなけっこう、無茶なことを考えています。
でも、実現できちゃうかもと思えるのがマネックスのいいところ。

想像力が明日のマネックスを創る。
妄想全開でまいります。

※15周年を迎えたマネックスでは、2020年のマネックスの形を考える「MONEX 2020」プロジェクトが進行中です。これまでの常識にとらわれず、様々な部署のメンバーが実現したいプランを練っていくという取り組み。ここで紹介する“妄想”の内容は、これをさらに妄想して編集しました。

妄想 1

宇宙ステーションで株式取引スタート、マネックスがプラットフォーム提供



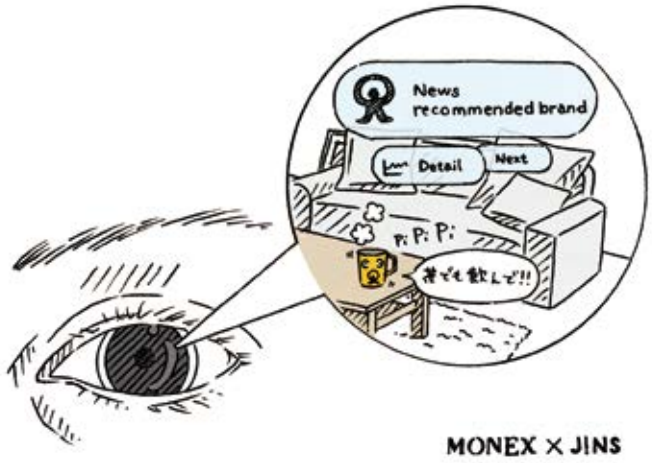
様々な国や地域の宇宙飛行士が集まる宇宙ステーション。そこで採用されたのがマネックスの「全世界共通株取引プラットフォーム」だ。1つのシステムで複数の国や地域の取引所に発注が可能。火星居住者への提供も目指す。

妄想 2

プロ野球チームマネックス・インベスターズ、設立3年で悲願の初日本一

3リーグ制となったプロ野球。2017年に参戦したマネックス・インベスターズが、プレーオフを制して悲願の初日本一に輝いた。

トレーダー御用達のウェアラブルデバイス、マネックスとJINSが開発



いつでもどこでもマーケットにアクセス可能なコンタクトレンズをマネックスとJINSが開発。迅速に売買ができる点が多くのトレーダーの支持を集めた。ただ、興奮しすぎて冷静な判断ができなくなる顧客が続出したため、急遽オプションで「まぁ、茶でも飲んで落ち着けくん」を発売。バイブレーションと音声通知機能が付いた湯のみで、リラクゼーション効果が高いと、一部の顧客の間で話題になった。

マネックス運営のインデックス、世界の個人投資家に浸透

マーケットの動向を見るうえで欠かせない各種のインデックス。為替換算をして、世界の企業を並べて評価、組み込まれたインデックスが、世界の個人投資家から絶大なる信頼を得た。

妄想 5

マネックス、パスワードやめました

IDとパスワードの入力がネットセキュリティの基本だったのは過去の話。マネックスが口座開設から売買までの全フローに、独自開発した生体認証技術を導入した。マネックスのセキュリティのしくみを他のネットサービスも追随。業界のスタンダードになった。

妄想 6

小学校の生活科で「お金」の授業、マネックスのノウハウを活用

マネックスが子ども向けに行ってきた「お金のがっこう」で培ったノウハウと教材が評価され、小学校の生活科に、より本格的な金融の項目が追加された。6年生で仮想の株式会社の設立までするという内容で、経営について早くから頭角を表す若い起業家たちが激増して、「マネックス世代」の上場が相次いだ。

ほっこりだけど
ためになる、
お金の絵本の
仕掛け人は……

お金の話なのにほっこりして、なんだかちょっと泣ける。そんな絵本が人気だ。仕掛けたのはマネックス。人間の幸せのために存在する、本来のお金の姿が描き出され、大型ネット書店のアンケートで「次の世代にも読ませたい絵本」の1位になった。

日本の金融機関で初、
グローバルな
コールセンターを設置

トレードステーション（米国）とマネックスBOOM証券（中国）で日本株の売買が激増。海外のマネックス顧客向けにコールセンターを現地で設置した。

寝ている間に億万長者!? 脳波でトレードが話題に

アルゴリズム取引が主流になった反動で、トレードの世界に『自然派』の流れが登場。究極の自然派として、寝ている間のリラックス状態の脳波を解析してトレードするマネックスのツールが大流行した。寝ているだけで大きな利益を上げる人も出て、自然派の投資家が増えるきっかけになった。

あなたに
ぴ、ぴ、たり、じゃ、ない、運用を
提案する機能が人気に

個々のお客様の資産状況や許容できるリスクを分析して、最適な運用方法をアドバイスするマネックスの顧客向けツール。あまりにぴったりで思い通りの運用になるため、「もっとおもしろい提案が欲しい」との声が多数。ついに、「あなたに合わない運用」を勧める機能を実装して人気に。

女性顧客獲得のカギは
MONE'Sキッチン

イケメン社員が日替わりで推奨銘柄と料理を紹介するオンライン動画。「MONE' Sキッチン」が女性に人気。番組を制作するマネックスでは、女性の口座開設が急増。口コミではオリーブ関連銘柄が多すぎるとネタになる。

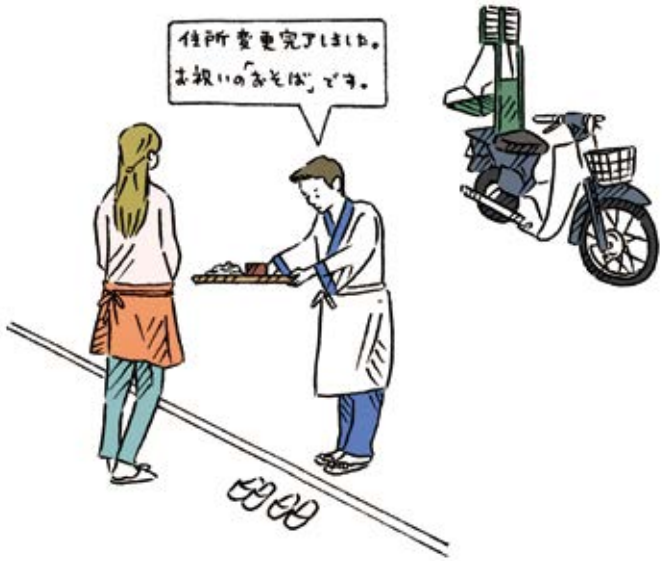
MIT Media Labから
インスピレーションを受けて
マネックスが開発、
お気に入りの
コンシェルジュが
あなたの資産運用を
お手伝い

3Dレーザーを使い、世界中の好きな人物を専属の金融コンシェルジュにできるという画期的な技術が登場した。3D映像のコンシェルジュが目の前に現れて質問に答えたり、資産運用のアドバイスをしてくれる。まさにアメリカン・コミックのようなサービスがついに実現した。

オンライン証券初、
全国縦断セミナー
47都道府県制覇

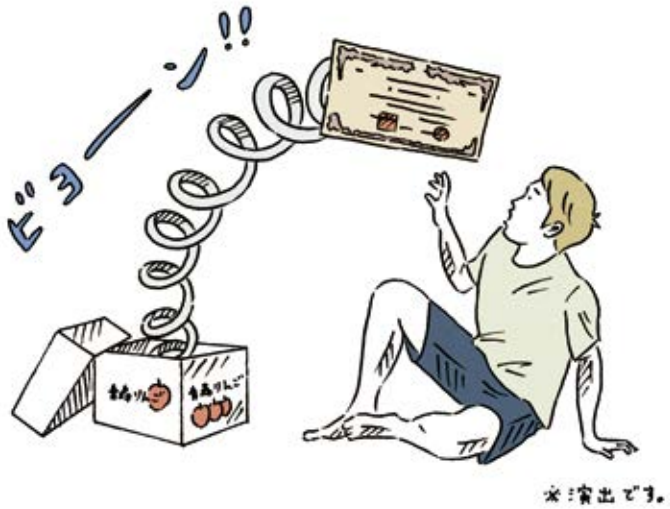
ネットがどれだけ充実しても、実際に会って話をするコミュニケーションに勝るものは無い。マネックスが創業20周年を記念して全国縦断セミナーキャンペーンを実施。那覇で最終回をむかえ、オンライン証券で初めて47都道府県でセミナーを行う“グランドスラム”を達成した。

引っ越し時の住所変更完了通知、ペーパレス化が進みそばが主流に



顧客の引越し時に金融機関が送る住所変更完了通知。書面で届くのが常識だったが、マネックスとそば業界がタッグを組み、代わりにそばが届く粋な仕組みを実現した。ただし、「麺のびてるw」との口コミが相次いだため、マネックスはのびないそばの開発に着手。

ふるさと納税、お返しは地元企業の株券で



「ふるさと納税」の特産品プレゼントに、地元企業の株券が登場した。仕組みはマネックスが提供。故郷の自治体と企業の両方に貢献できるとあって、投資家の注目を集めた。

SPECIAL ISSUE
02

今日までの話
Learn from the Records

そのときはありえないようなことを
実現してきたのがマネックス。
創業当初から、チャレンジの連続でした。

こんなことをしてきたのだから、
前の特集で紹介した妄想は、
単に妄想に終わらないはず。

チャレンジの歴史を、少しだけ振り返ります。

Learn from 2014

野菜史上初、金融業界騒然？！
株が株を買います（あれ？）
カブがカブを買います（あれれ??）

世界初、株取引するカブ――。株…カブ……蕪！？ こんなダジャレで2014年、マネックスは初めてエイプリルフール企画を実施した。「世界で初めて野菜のカブが株取引するトレーディングツールを開発した。その名もベジタブルトレーダー『カブ子さん』。『カブ子さん』は、カブの生体電位※1を利用して自動で株取引を行う※2次世代トレーディングツール…」という設定。しかも、エイプリルフールだけで終わらせず、なんと実際に試作機を作ってしまった。
「カブ子さん」の解説動画に出演する松本大、広木隆の迫真の演技に、巷では「え？本当にできるの？？」と話題になった架空のサービス。いずれはこんなことが可能になる時代がくるのかも！？

※1 生体の生命維持活動によって生じる微弱な電位。
※2 試作機のため、実際に発注はせず、売買のシグナルを出します。

Learn from 2013

ソニーバンク証券株式会社
IBFX Holdings, LLC
TradeStation Group, Inc.
BOOM証券グループ
オリックス証券株式会社
トウキョウフォレックス株式会社
日興ビーンズ証券株式会社
セゾン証券株式会社

合併、合併、さらに合併
異文化が集まる金融機関

マネックスには、様々な会社の文化が集まっている。創業3年目、マネックス証券とセゾン証券との合併が始まり。以来、多くの企業と手を組み、多様な価値観を組織に根付かせている。
国内の証券会社だけでも4社と合併し、その度に新しい価値を取り入れている。とりわけ環境の変化が激しい証券ビジネスの世界で、多様な価値観を受け入れる柔軟さは最大の強みと言えるだろう。香港のBOOM証券グループや、米国のTradeStation Group, Inc.とパートナーになる先は国内に留まらない。
統合時には困難な課題や膨大な作業で社員は皆多忙を極めるが、これだけ多くの経験を重ねると、社員からは「もはや驚かなくなった」「慣れた」との声も聞こえる。

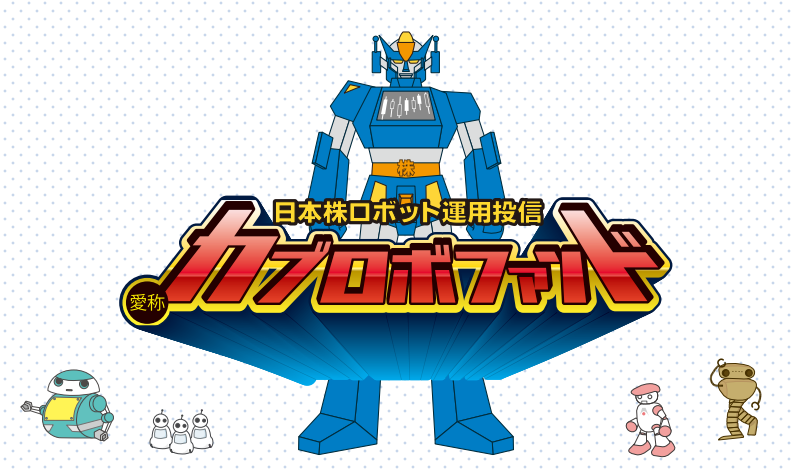
Learn from 2008

会議室の壁が
キャンバスです。
ART IN THE OFFICE

企業がアーティストを支援するのは珍しくない。しかし、会議室の壁をまるまる“キャンバス”として開放するところはなかなかない。
「ART IN THE OFFICE」は、取材対応時に使う会議室の壁を利用した作品を一般公募する取り組み。単に展示の場を提供するのではなく、選ばれたアーティストがオフィスで作品を制作するプログラムで、社員がアーティストと会話をするなど、刺激を存分に受けている。取材時の写真や映像に作品が出ることで、アーティストにもメリットを感じてもらっているようだ。ちなみに、第1回に選ばれたアーティストは坂口恭平氏。『0円ハウス』(リトルモア、2004年)で話題になった、気鋭の人物だった。

過去の受賞アーティスト(左から順に)
2008年度　坂口恭平 / 2009年度 松本力 / 2010年度 中田周作 / 2011年度 渡邊トシフミ / 2012年度 福士朋子 / 2013年度 野原万里絵 / 2014年度 川内理香子

Learn from 2009



悪い奴ら(感情)に、
もう負けない!
世界(個人投資家)を救うロボット開発

経済は生き物。株式市場で利益を上げるには、刻々と変化する経済状況を把握して、最適な株の売買注文をしなければならない。しかし人間の能力には限界が……。常に神経を張り巡らせて勝ち続けるのは、プロでも至難の業だ。特に人間は感情に左右される生き物。ちょっとした判断ミスが、大きな損失につながる。そこでマネックスとトレードサイエンスが開発したのが「カブロボファンド」だ。
恐怖、欲望、不安、油断‥‥、そんな感情に負けない、ぼくらの強い味方である。ロボットがマーケットを四六時中注視し、そのときの資産状況を考慮しながら、利益を出すためにプログラムに則って株の売買をする。巨悪(感情)に負けないカブロボファンド。行けカブロボ! 進めカブロボ!

Learn from 2006

小学生が10万円を運用して学ぶ。「株のがっこう」で教育に参入！?

お客様の投資リテラシーの向上のために、様々なサービスを提供しているマネックス。子どもたちに経済や資本市場について学ぶ機会を提供する「株のがっこう」というイベントを2006年1月に開催した。証券取引所で、小学生に株式投資や経済についての講義を実施。その後、実際に10万円を運用するという内容だった。子どもが大金を扱うことへの批判もあったが、子どものころからリスクを学ぶことで、必ず将来の資産運用に役立つというマネックスの信念は曲げられない。
その後も、様々な場所で「株のがっこう」を実施し、また、中学生向けやシニア向けも実施されるなど、あらゆるお客様の学びの場となった。

Learn from 2007

鮨ネタから アイドル話まで、社長と生チャットできるお金のセミナー

オンライン証券で行うセミナーの多くは、インターネットで配信するセミナーが主流。マネックス証券は、全国各地での対面型セミナーを数多く開催しているが、オンラインセミナーにもマネックスらしさが表れている。代表的なオンラインセミナーで人気があるのが、2007年4月より続く「松本大のここだけトーク」、2009年2月から開始した「チャット駆け込み寺」の2つ。
松本大をはじめ講師を務める社員が、チャット機能を活用し、セミナー開催中に受講者からの質問を受付け、その場で回答する。特に松本の「ここだけトーク」はテーマを絞らず何でも質問できるので、相場の話、トレーディングの話、経営の話はもちろん、好きな鮨ネタやアイドルの話など、質問が多岐にわたり、それらすべてに回答する。創業から15年たった今でも変わらないスタイルだ。

Learn from 2005

世界最大の問題は
貧困かもしれない。
世界最小の単位で投資可能にしよう

融資や保証など、様々な形で貧困国を支援し、持続可能な開発を推進することで貧困の削減を目指す国際復興開発銀行（世界銀行）。資本市場から最も高い評価を受けている国際機関の一つで、世界各国の資本市場で債券発行の実績がある。
マネックスは、世界銀行が発行する債券「世銀債」の最小投資単位を、それまでの1000通貨から100通貨に引き下げ、世界中で最も小さな単位で世銀債に投資できるようにした。例えば米ドルなら100ドルから投資することができ、世界銀行が取り組む教育、医療、災害復興、環境問題、貧困問題に、少しの関心と少しのお金からコミットできるというわけだ。
高金利通貨債は、超低金利政策が続くなかで個人投資家に広まった金融商品。小口化で、より裾野を広げることにもつながった。

これは、ワシントンの
世銀の担当者と
直接話をしながら
決めました。
業界のプロの人たちは
びっくりですよ（笑）。
かなりセンセーショナルな
話題になりましたね。
松本大 談

Learn from 2001

土曜日はみんなでキャンプ！
ではなく、
株主総会の日に決めました

上場企業の多くは株主総会を平日の営業時間中に開催する。しかしこれでは、日中に仕事をしている人が参加するのは難しい。そこで、マネックスは異例ではあるけれど、株主総会を土曜日に開催することにした。
上場後、初めての株主総会は2001年6月23日土曜日。社員全員が手作りで運営した総会には、411人が来場。2時間16分の会議だった。
議長を務める松本は当時、会場に徒歩で行ける場所に、前日に投宿していた。お酒を飲んで寝坊することを恐れて……、ではなく、交通機関が麻痺するなど、もしものことが起きても、議事を進行できるようにという考えから。開催中の議長席には、停電に備えて、ハンドマイクと懐中電灯を置いておくという徹底ぶりだった。
週末に株主総会を開催する会社もいまは多くなってきている。マネックスは創業来変わることなく、土曜日開催の株主総会を行っている。

写真は2006年度株主総会

Learn from 2000

株式投資は誰でもできる。
上場時に、
身を持って示しました

信じられないかもしれないが、株式投資はかつて、お金持ちのためだけのものだった。商法で額面株式1株の純資産が5万円以上でなければならないと決められていたからだ。なんと1株1億円などという銘柄もあった。しかし、オンライン証券を手がけるマネックスの株が、個人投資家が手の届かないような高い株価で上場するわけにはいかない。そこで取った手法が「無額面化、1円割り当て増資、事実上の64分割」。1株4万5000円にしたのだ。法務省に認めてもらえるよう、国会議員に積極的に働きかけ、実現にこぎつけた。2001年に単位株制度が撤廃されたのは、マネックスの取った方法が起点になっている、実は影響力の大きい“提案”だったのだ。
そのようにして迎えた上場。ちなみに、上場後に開催したパーティーは、翌朝まで続いたのだった。

Learn from 2001

普通、証券会社は作らなかった。
“出し放題”
クレジットカード

金融機関にとって、預かっているお金の多寡はとても重要な指標。減っては困る。銀行は生活口座として使う顧客が多いから、当たり前のようにキャッシュカードがあるけれど、証券会社にはないのが普通だった。
それを変えたのもマネックス。クレジットカード一体型のキャッシュカード「マネックス《セゾン》カード」は、2001年6月に誕生した。クレジットカードの決済代金がマネックスの証券口座から引き落とされるし、全国のATMで証券口座から出金できる。まさに出し放題のカードである。
銀行口座と同じように、証券口座も身近になってほしい——。そんな思いから実現したキャッシュカードは、今も多くの人に親しまれている。

Learn from 1998

場所も、システムも、信用もなし！
だけど始めた、
ベンチャースピリット

1998年10月、松本大が、当時ソニーの社長だった出井伸之氏と会食した際に披露した、オンライン金融会社設立の構想。ここからマネックスは始まった。
メンバーはたったの4人。皆、松本がいたゴールドマン・サックスの同僚だ。資金が足りず、IIJのオフィスを間借りした。信用がないので、健康保険組合にも入れなかった。そして、オンラインサービスを提供するのに、なんとシステムの専門家がいなかった。同時期に立ち上がった競合他社の多くは、既に基盤を持っていた会社がほとんど。「若気の至りというか、素人の無謀さというか、それだけで始まった感が強い」（松本）。それでも1999年10月にサービス開始にこぎつけた。準備会社設立から、半年マイナス5日のスピードでの実現だった。

Learn from 1999

「社長が頼みに来たのは初めてだ」
デザイン界の巨匠に直談判

MONEX
Monex, Inc.

マネックスのロゴは、日本を代表するグラフィックデザイナーの松永真氏が手がけた。依頼したいと決めていた松本は、巨匠に迷わず直談判に行った。
「 松永さんは、『これまで何百という会社のロゴデザインを手がけてきたが、社長が頼みに来たのは初めてだ』と言って驚いていました。そして、なぜ自分に頼みたいのかを聞かれたので、僕はこう答えたんです。『僕は人間だから、この世からいなくなる。でも、会社のマークはずっと残っていく。そういう大切なものだからこそ、ぜひ第一人者にしっかりしたものを作っていただきたいんです』と。そうしたら松永さんは喜んでくれて、その場で『やりましょう』と快諾してくれんたんですよ」（松本）。
後日、松永さんから提案されたのは1案のみ。通称「マネオ」の誕生だった。

Global Vision

我々が創っていこうとする新しい企業体のイメージとは何だろうか？

それこそが、Global Visionに他ならない。

Global Visionとは、簡単に云うと、インターネットが元々ボーダレスで、金融商品が(FXが最たる例だが)そもそもインターナショナルで、マーケットは益々24時間取引化していく中で、オンライン証券は一拠点のみで大きくなろうとするよりも、グルーバルに協働しながら成長することを目指すべきであり、そうすることで各拠点内でも国際的にも競争力が付き、その結果規模も大きくでき、かつ効率的な、即ち利益性の高い企業グループを創ることができるという考え方である。

Global Visionはその枠組みを創るだけで手品のようにグループ全体の競争力・収益性が自動的に向上するものではない。各拠点が自己努力で収支改善に努めるべきであり、その上でシステムの共用などによる追加的コストカットを追求することが可能になり、また各拠点のホームマーケットの商品・サービスをグループ内企業に供給することにより、他グループに比して競争力を持ちうるというものである。

――松本大からマネックスグループ全社員に向けたメッセージより一部抜粋して編集

2010年　秋　東京　一

オンライン証券ビジネスを起業して10年の歳月が過ぎ、松本は世界のマーケット、取引所、規制や投資家の動向を観察するなかで、証券会社は大きく変化していかなければならないと肌身で感じていた

マネックスグループCEO
松本　大

P: P: P: P:

サロモン・スレデニとはある友人の紹介でサンフランシスコで会って以来数年にわたり日米のオンライン証券業界の動向について情報交換を続けていた

Hi！サロ！

Oki！

どうした？面白い情報が入ったのか？

松本は東京に本社を置くオンライン金融グループマネックスグループのCEOであり

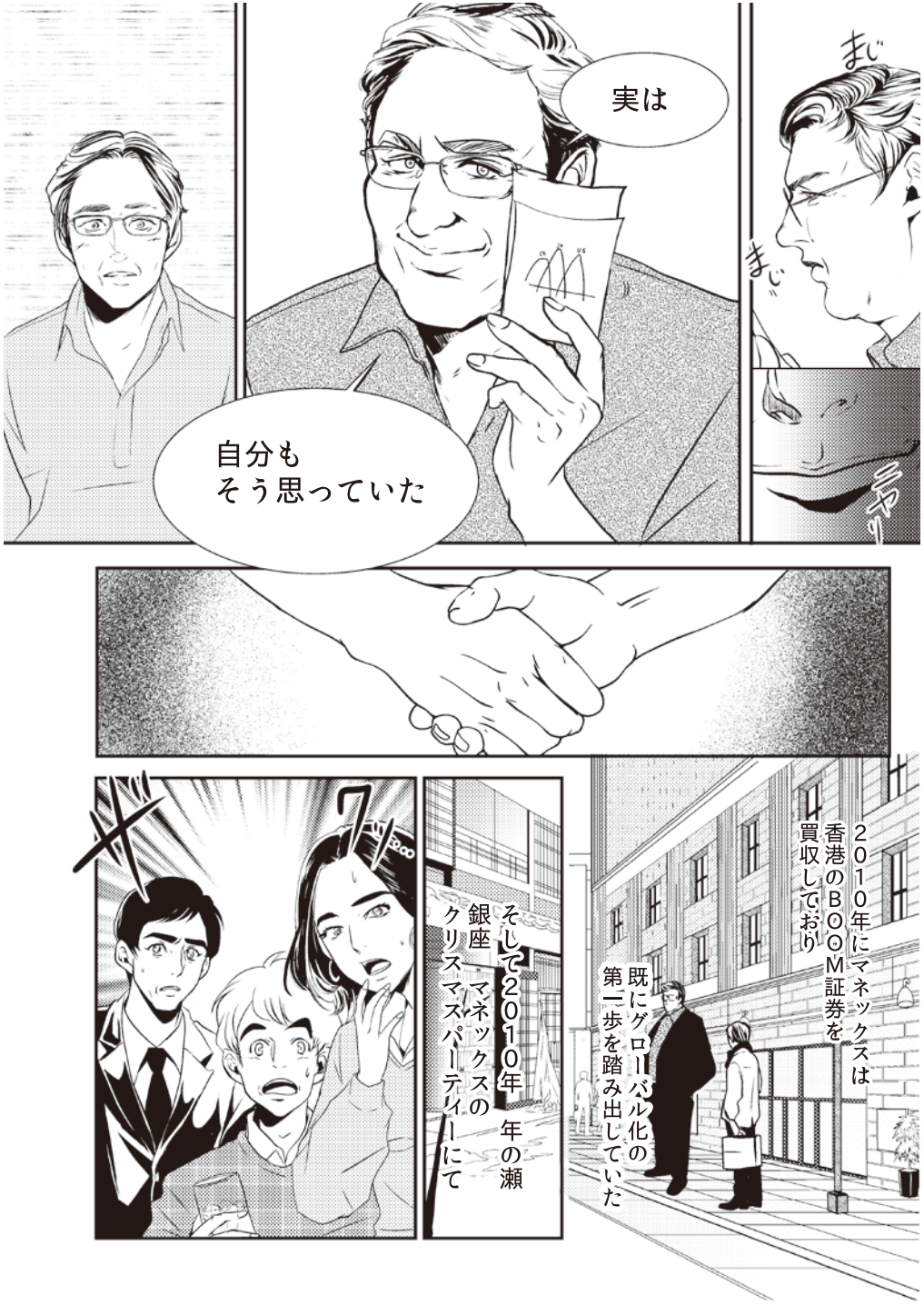
スレデニはフロリダに本拠地を置くオンライン証券グループトレードステーション・グループのCEO

彼からはいつもウオール街のインベストメントバンカーやトレーダーたちからは得られない情報を得ていた

11月にNYに行くんだその時に会えないかな？

2010年11月7日ー
ガヤ
ガヤ
ニューヨーク・マンハッタン
トレードステーションは米国のトレーダーや個人投資家たちから圧倒的な支持を得ていたが
オンライン証券会社をとりまく環境はますますグローバル化していくと考えているんだ
どうしてそう考えるんだい？
ナスダックに上場しており経営はプレッシャーにさらされていた…世界的なゼロ金利時代で資金運用で得る収益が低迷していたのだ
トレードステーショングループ CEO
サロモン・スレデニ

インターネットはもともとボーダレス…金融商品はそもそもインターナショナル
USA
Japan
Hong Kong
マーケットは合従連衝が進み、ますます24時間取引化していく
サラサラ
オンライン証券会社は一拠点のみで大きくなるよりもグローバルに協働して成長することを目指すのが合理的だ
そうすることで世界で競争力を持った企業グループをつくることができる…そう思わないかい？


まじ
まじ
ニヤッ
実は
自分も
そう思っていた
2010年にマネックスは
香港のBOOM証券を
買収しており
既にグローバル化の
第一歩を踏み出していた
そして2010年 年の瀬
銀座 マネックスの
クリスマスパーティーにて
ガーン

これから当社は
グローバル・ビジョンを
進めていく！
このとき既に2社を統合する
プロジェクトが水面下で始まっていた
トレードステーションとの統合は
マネックスにとって
きわめてチャレンジングな
ディールだった
創業来積み上げてきた
資金の半分以上を
このディールに
注ぎ込むことになる…
マネックス史上もっとも
大きなM&A案件だった

2011年3月ー

ドイツ証券を
アドバイザーにして
デューデリジェンスが始まった…
クロスボーダーのM&Aは
それだけで大仕事だが
マネックスにとっては
経験したことのない規模の
大きな取引…
買収を決定する直前の
最終的なフロリダでの
デューデリジェンスには
松本自身も参加した
成田空港
!?

3.11 東日本大震災
震災直後、
株式市場も大きく
揺れ動いた…
何よりも優先したのは
お客様の取引を安全に
執行すること…
経営統合に
向けての交渉は
一時中断だ
Oki！
無事でよかった！
「実は自分も
そう思っていた」
…ーという、
状況にあるんだ

すまないー…
現在、関東広域では余震が続き…
10日後には入札だったが非常事態である
何が起こるかわからない今の日本の状況で
この資金をトレードステーションの買収に使うべきではない…
日本大震災
M8.8
震度7
3月12日
死者
1週間後ー…

『円が戦後最高値を更新し、震災直後の日本経済への影響が懸念されて・・・』
歴史的な円高ー…
――クロスボーダーのM&Aを行うタイミング…
カ
日本が危機にある今こそ、敢えて世界に出るリスクを取らねばならない…
やはりグローバル・ビジョンを進めなくては…！
ガタッ…

ピクッ…
OK、Oki！
一緒に頑張ろう！
最終的に松本が決めた入札の金額がマネックスグループの取締役会に諮られた
一方スレデニは、トレードステーショングループの取締役会に経営統合の相手をマネックスグループとすることを諮った…
その結果
連絡が来たぞ！

Hi！サロ！
Hi！Oki！
トレードステーションの譲渡先はマネックスグループに決定した…
最終金額は、4億ドル…およそ340億円…
WILDLIFE
HOME BUSINESS MARKETS
Catfish
Japan online broker Mone
コングラッチュレーションズ！

ありがとう
サロ…
これから
よろしく！
私はマーケットが好きだ
世界中のマーケットで
個人投資家が投資や
トレーディングを楽しめる
環境を作りたい
グローバル・ビジョンは
そのスタートだ
マネックスを
世界一の個人向け
金融サービスを
提供する会社にしたい
そのためにグローバル
1000人の社員たちと
一緒にマネックスを成長させて
いこうと思う

トレードステーションの技術力で
グローバル取引プラットフォームを開発し、
マネックスは、
日本、米国、中国という世界の
3大金融拠点で付加価値の高い、
個人投資家向けオンライン
金融サービスを提供していくのだ

SPECIAL ISSUE
03

数字で見る
マネックス
Figures Never Lie

数字は嘘をつかない。
これが今のマネックス。
こんなにも多様で、こんなにも面白い。
意外？ イメージどおり？
解釈は様々。
でもなんだかわくわくしませんか。

育児休業復職率

総数18名

100%

男女比

2014年4月末現在

6:4

1006人中

メールマガジン

マネックスメール

1999年8月10日の第1回からスタートし、2014年9月1日で

3701号

拠点別従業員数

2014年4月末現在

310人　73人　623人

グループ
連結従業員数 1006人中

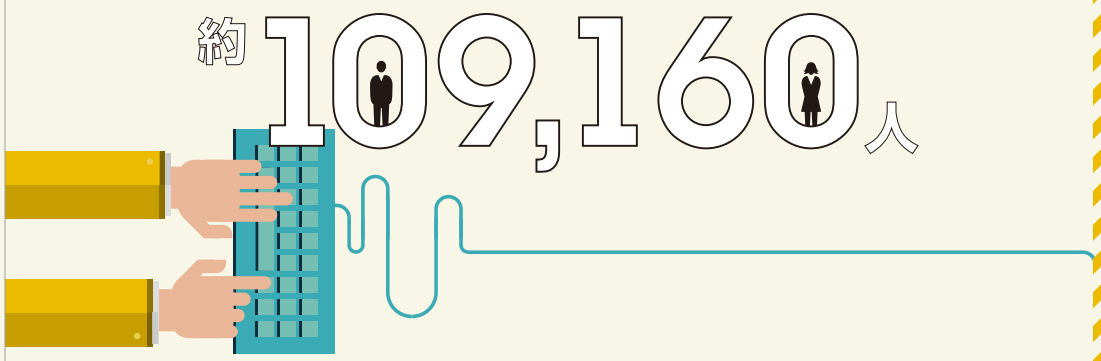
2013年度のオンラインセミナー

回数

2013年度のオンラインセミナー

人数

各セミナー開催回の参加者数（ユニークユーザー数）の延べ人数

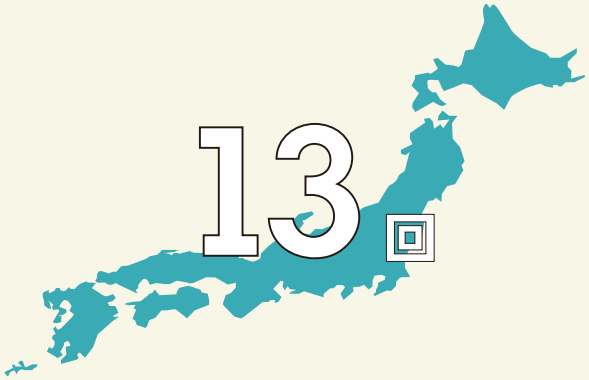


※2013年度 マネックス証券実績

2013年度の会場型セミナー

回数

都道府県は7箇所：札幌・仙台・金沢・東京・大阪・名古屋・福岡



2013年度の会場型セミナー

人数

各セミナー開催回の参加者数（ユニークユーザー数）の延べ人数

SPECIAL ISSUE
04

広告で見る
マネックス
Feel
the Message

広告には、そのとき企業が伝えたかった
メッセージが詰まっています。
どんな時代背景で、
どんなコミュニケーションをしてきたのか。
そのときの社会情勢や、金融業界のこと、
マネックスの立場などを
想像しながらお楽しみください。

新聞広告15d
マネックスの
つぶやき
2007.10.26

アメリカでは、子供の誕生日に遊園地やハンバーガー会社の株を一株プレゼントすると聞いています。それは、とても楽しいと思います。

マネックスは自分のことを、ただいま青春まっ盛り、と思っております。悩みも多い。けれど、それ以上に挑戦したい夢がたくさん。例えば、世界の楽しいことを日本に導入し、日本の良いことを世界へ伝えることがあります。なにごとも、証券とか、日本とか限られたフィールドのみではなく世界的視野で進めていきたいと、考えています。既成の思考にとらわれず Think outside the box の姿勢を貫いて行きたいと、考えています。

新聞広告15d
マネックスの
つぶやき
2008.1.31

お金の動きをみていると世界は、ひとつなんだと思います。そして、私たちのフィールドにも境界はありません。

マネックスはインターネットをインフラにして、よりよいお金とのつきあいかたを求めてきました。そしてインターネットには国境がありません。境界のないこと。no boundary マネックスは誕生の日から、世界をみつめていました。宇宙から青い地球を見た飛行士たちは、いままで以上に、この星に愛を感じたそうです。境界を越えてみると、この国の個人金融についても新たな視界が、ひらけるのではないかと、考えます。

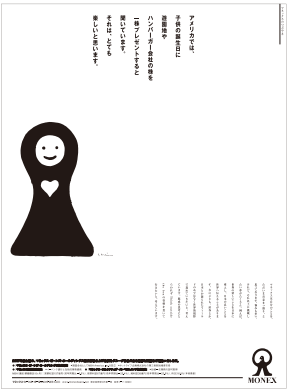
新聞広告15d
マネックスの
つぶやき
2008.4.30

インターネットは個人投資家に世界の金融の窓をひらきました。あすのことはそろそろ、自分で決めませんか。

現在、世界の金融市場は、新しく拡大中です。ＩＴ革命がそれを推し進め、インターネットが個人投資家をエンパワーしています。世界のどこでも誰でも、同じことが可能な時代、世界の金融市場の主役となるのは、国や政治ではなく知恵と勇気あるひとりひとりの個人投資家であると思います。そのようなお客さまを、マネックスは積極的に支持し応援していきます。いつも明日の金融を創っています。

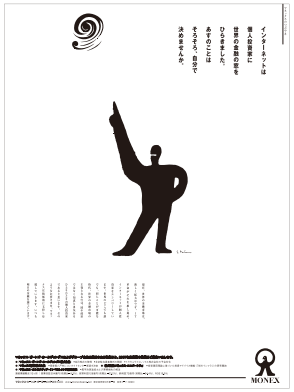
日本経済新聞　朝刊　全国版モノクロ15段より一部抜粋

2007.10.26



2008.1.31

2008.4.30



日本経済新聞　朝刊　全国版モノクロ15段

新聞広告15d
マネックス
10周年
2009.10.1

※2019年の今日、掲載予定の新聞広告です。

マネックスグループは、今日で20周年。この10年で私たちが実現してきたことをあらためてご紹介します。

◎給与振込から資産運用まで利用する「生活口座」として、新卒社会人の9割がマネックスに口座を開設。社会人として自立した経済感覚が身につくマネーナビ機能が高い支持を得る。

◎マネックスが提案し組織化した、環境問題に対して積極的に取り組む企業を個人投資家が支援するプロジェクト「エコ・インベスターズ」が世界的なムーブメントに。

◎中国、インドに続き、マネックス・ブラジルを開設。世界人口の約半分をカバーするグローバルな金融グループに。

◎各国版のカブロボが大人気。インドは辛口。ブラジルはテンポのいいアドバイス。お国柄を反映したAI人格が話題を呼び、日本や中国などから利用者が殺到する。

◎ホログラムで投影された3Dエージェントと、会話によって株取引ができる「VSA（バーチャル・セールスエージェント）」サービスを開始。誰でも手軽に投資を行えるようになる。

◎投資から社会を見つめ、人生を学ぶ。そんな考え方から、本当の大学機関「マネックス大学」を創立。お茶の水キャンパスには、世代や国境を越えて、数多くの学生が日夜集まる。

◎お年玉がわりに、成長企業の株を福袋のように詰めた「お投資玉」が大ヒット商品に。

◎東アジアを中心とした新しい基軸通貨の構想に参加し、これをベースに設計した商品を世界で初めて発売。国際市民としての視野を持つ20代を中心に、世界中で評価を受ける。

ほとんどは、まだまだ遠い夢。
でも、すべては夢を見ることからはじまります。
未来を想像し、新しい金融を創造する。
私たちマネックスグループは、今日、10周年を迎えました。

個人のためのオンライン総合金融グループ
マネックスグループ株式会社　東証一部上場　証券コード：8698　www.monexgroup.jp
マネックス証券株式会社／株式会社マネックスFX／マネックス・オルタナティブ・インベストメンツ株式会社／株式会社マネックス・ユニバーシティ／トレード・サイエンス株式会社／WBハンプレクトジャパン株式会社／MBH America, Inc./北京駐在員事務所

日本経済新聞　朝刊　全国版モノクロ2段／朝日新聞　朝刊　全国版モノクロ3段

新聞広告2d/3d
広告コピーシリーズ
2008.11
-2009.4

今日の株価より、
10年後のあなたがどうであるか。

金融にも、政権交代は必要だ。

全社員諸君。
さあ、本当の戦いはこれからだ。–CEO 松本大

世の中が下ばかり向いている中、
新規口座開設者が激増しているという事実。

今までのやり方に任せていたら、
きっとまた、同じことが起こる。

暗い話題ばかりの毎日に、
慣れっこになっちゃいけない。

新聞広告2d/3d
広告コピーシリーズ
2008.11
-2009.4

次、来る波に乗るための
準備をしておこう。

今日を、あなたにとって最適な
金融機関を選ぶチャンスと考える。

MONEYを次へ進める会社。

対策その1:
現実から決して目を背けないこと。

私たちの最大の武器は、人である。

変化は怯えるものじゃない。
みずから起こすものだ。

向かい風か、追い風か。
それは、あなたの見ている方向で決まる。

嵐が過ぎたあとの空は、
青く澄んでいるはずだ。

and more

朝日新聞　朝刊　全国版モノクロ3段より一部抜粋

今日の株価より、
10年後のあなたがどうであるか。

MONEX GROUP

マネックスグループ株式会社 東証一部上場 証券コード:8698 http://www.monexgroup.jp/

全社員諸君。
さあ、本当の戦いはこれからだ。–CEO 松本大

MONEX GROUP

マネックスグループ株式会社 東証一部上場 証券コード:8698 http://www.monexgroup.jp/

SPECIAL ISSUE
05

歴史で見る マネックス History

History of Monex Group, Inc.

1999	4月	株式会社マネックス設立(その後同年6月にマネックス証券株式会社に商号変更)
	5月	日興ビーンズ証券株式会社設立
2000	8月	マネックス証券、東京証券取引所マザーズ市場に上場
2001	6月	マネックス証券、セゾン証券株式会社と合併
2004	8月	マネックス証券と日興ビーンズ証券、株式移転により 共同持株会社であるマネックス・ビーンズ・ホールディングス株式会社を設立 東京証券取引所マザーズ市場に上場
	10月	マネックス・オルタナティブ・インベストメンツ株式会社設立
2005	5月	マネックス証券と日興ビーンズ証券が合併し、商号をマネックス・ビーンズ証券株式会社に変更
	9月	東京証券取引所市場第一部に上場 WR Hambrecht & Co Japan株式会社(現マネックス・ハンブレクト株式会社)設立
	11月	マネックス・ビジネス・インキュベーション株式会社(現マネックスベンチャーズ株式会社)設立 株式会社マネックス・ユニバーシティ設立(2012年9月解散)
	12月	マネックス・ビーンズ証券の商号をマネックス証券に変更
2006	4月	トレード・サイエンス株式会社設立
2007	8月	米国に現地法人MBH America, Inc.設立
2008	3月	北京駐在員事務所設置(マネックス証券の北京駐在員事務所設置を受けて2012年3月に閉鎖)
	4月	トウキョウフォレックス株式会社(現株式会社マネックスFX)を子会社化
	7月	マネックス・ビーンズ・ホールディングス株式会社の商号をマネックスグループ株式会社に変更
2010	1月	オリックス証券株式会社を完全子会社化
	5月	マネックス証券、オリックス証券株式会社と合併
	10月	マネックス証券が北京駐在員事務所を設置
	12月	BOOM証券グループを完全子会社化
2011	6月	TradeStation Group, Inc.を完全子会社化
	11月	TradeStation Group, Inc.がIBFX Holdings, LLCを完全子会社化
	12月	TradeStation Forex, Inc.(現IBFX, Inc.)、Interbank FX, LLCと合併
2012	1月	TradeStation Group, Inc.、IBFX Holdings, LLCと合併
	7月	本店を東京都千代田区丸の内から東京都千代田区麹町へ移転
	8月	ソニーバンク証券株式会社を完全子会社化 マネックス・オルタナティブ・インベストメンツ株式会社株式をアストマックス株式会社へ譲渡、 アストマックス株式会社株式を15%取得し持分法適用会社化
2013	1月	マネックス証券、ソニーバンク証券株式会社と合併
	4月	株式会社マネックスFXの顧客口座および関連する外国為替証拠金取引サービス事業等を マネックス証券が吸収分割により承継
	6月	委員会設置会社に移行
2014	2月	TradeStationが開発した米国株取引プラットフォーム「トレードステーション」を 日本の個人投資家向けに提供開始
	4月	静岡銀行と資本業務提携

SPECIAL ISSUE
06

そとから見たマネックス
Supporting Comments

たくさんの人が
マネックスを注目してくれています。
15周年を記念して、
応援コメントをいただきました。
（五十音順）

川本裕子 氏

15年前、マネックスはインターネット証券の草分けとして生まれ、証券業界に破壊的イノベーションをもたらしてきました。現在では世界に多くの拠点をもち、グローバル企業と呼ばれるべき存在にまで成長しています。

しかし現在、スマートフォンや、パーソナルクラウドの出現が、また世界を大きく変えようとしています。これらの存在は従来の産業の枠組みを根本から変え、世の中の変化のスピードは高まる一方です。数年先でさえ、もはや誰も読むことはできません。

これから次の15年。
マネックスが更に世界をリードする存在となるためには、今の延長線上で戦っていくだけでは難しいでしょう。ときには、これまでの歩みに対して自己否定といえる決断を求められる場面もあるのではないでしょうか。

それらをしっかりと受け止めて、マネックス自身で次の破壊的イノベーションを貪欲に創り出して欲しい。マネックスが15年後、更に燦然と輝く存在でいることを期待しています。

出井伸之 氏

マネックス創立15周年おめでとうございます！
心よりお祝い申し上げます。
2006年から2013年までの7年間、社外取締役を務めさせて頂きました。マネックスは、「とにかく成長のスピードが速い」、「止まっていることがない」、「フットワーク軽やか」、「毎日が一生懸命」というのが全体を通しての感想です。

実際、私の在任中、日本国内のネット証券から、あっという間にグローバル企業に成長し、アメリカへ、アジアへとその活動を広げていきました。日本の中でもチャンスがあれば、組織統合でも、新しい市場への展開でも、どんどんと進めました。マネックスのことを一言で表せば「瞬発力のある知性」といったらよいでしょうか。

スピード速く、行動力もある一方で、またそれ故に必要性を肝に銘じているのか、他者の意見を「聞く力」を持っている組織でもあります。社外取締役をしていても、重大な責任を感じるとともに、とてもやり甲斐がありました。松本大さんのリーダーシップの下、ガバナンス体制としては世界有数をめざしている企業といっても過言ではないと思っています。

これからも、そのバイタリティとフットワークの良さでますます発展していってほしいと願っています。そして日本を代表する金融グループになることを心からお祈りしています。

本当におめでとうございます。

加藤丈夫 氏

「先んずること一歩　ONE STEP ahead」マネックスは創業以来、時代の変化に即応し、常に“一歩先”を進み続ける会社であったし、これからもそうあり続けてほしいと願っています。

私が社外取締役として経営に参画した5年間（2009～2013）は、リーマンショック後の世界経済の混迷期でしたが、そうした厳しい環境の中でマネックスは内外企業との提携強化や経営統合を進めて経営基盤の充実を図り、事業のグローバル化に積極的に取り組んできました。これらの事業戦略を展開する上でのベースには、founderである松本さんの卓越した“先見性”と“行動力”があることは言うまでもありませんが、それを一言で表現すれば「先んずること一歩」だと思います。これからの5年間—創業20年に向けて、社員全員がこの価値を共有して前進することを期待しています。

楠木建 氏

飛び道具に頼らない。奇策に流れない。
だからといって「愚直」「地道」というわけでもない。ときどき「ん?」と思うことをするけれど(例として、システムの内製化とか広木さんの「ストラテジーレポート」)、考えてみると筋が通っている。

本筋に関係ないところでは、あまりバタバタしない。慌てない。騒がない。
僕が思うマネックスのよいところを一言でいえば「正攻法」。
ようするに、「ちょいとひとつ、うまくやってやろう…」というところがないことです。

斉藤惇 氏

MONEXは「偏向していないルールの下では競争は正義であり、勝者は祝福されるものであるという指導的モデルを追及する集団」である。

サンプラザ中野くん 氏

15周年、おめでとうございます。サンプラザ中野くんだー!
あれよあれよと世界に広がりしっかりと仲間を増やしている。マネックスって本当に素晴らしい。
俺はデビュー30年。マネックスパワーにがんばってついていきます。ますますのご発展をお祈りしますランナー*\(^o^)/*

羽生善治 氏

MONEX、創業15周年誠におめでとうございます。変化の極めて激しい金融の世界において15年は他の世界の創業100年に匹敵する事と思います。
これからも温故知新であると同時にフロンティアを切り開く企業として発展されて行くことを大きく期待しています。

Chris Flowers 氏

Congratulations on your 15th Anniversary!

I have known Chairman Oki Matsumoto since he joined Goldman Sachs & Co. in 1990, so now for 24 years.
Matsumoto-san and I left Goldman Sachs at the same time, in 1998, to start our own companies, in his case, Monex Group. This was a very brave thing for Matsumoto-san to do, but it has turned out to be a very wise decision!
I have watched with admiration as Monex has grown from very small beginnings to a global group doing business around the world.
I also have been impressed as Monex has expanded into China and made bold moves in the United States: also very brave things to do, but also correct decisions I think.
It is a measure of Monex's success that it has shown strength in difficult times as well as flourishing in easy times, laying the foundation for Monex's current very good results and prospects.
I have found Matsumoto-san and his colleagues to be among the most thoughtful about the long term future, both in the financial business, and also in thinking about Japan and its economy.

When I think of Monex, I think:
•Focused on the customer
•Focused on the global market
•Focused on the long term
•Focused on innovation

My wish for Monex, its shareholders, employees, customers, and for Matsumoto-san, is continued success, innovation and prosperity over the next 15 years to equal the last 15.
I went back and looked at Monex's first annual report. As of March 31, 2000, Monex had shareholders' equity of ¥4.4 billion; today it is ¥80 billion. At that rate of growth, by Monex's 30th anniversary the company's equity will be around ¥1.5 trillion! Please don't disappoint me!
However, I also noted in comparing today's annual report to the first one from 2000, that Matsumoto-san has not aged a single day. May we all look younger every year like Chairman Matsumoto!

With best wishes,

Chris Flowers
J.C. Flowers & Co. and Shinsei Bank

John Meriwether 氏

I would like to congratulate Oki Matsumoto and his colleagues on the 15th Anniversary of the founding of MONEX. You have succeeded in building a global, innovative, financial technology company while providing enormous added value to your clients in a transparent and ethical way.

Congratulations and all the best,
John Meriwether

Nick Roditi 氏

I have watched with admiration the Founder and Management of Monex establish themselves as a force in the market place over the past 15 years.
The successful application of the latest technology in the financial sector in a global context is a great accomplishment.

Nick Roditi

Thank you

最後に

5年後、MONEX 20周年、
それは東京オリンピック2020のイヴ。

私たちはどれだけ変わっているだろう、
成長しているだろう。

その時に向けて、がむしゃらに邁進します。

松本 大

ART IN THE OFFICE 2014 作品: 川内理香子

MONEX GROUP
Monex Group, Inc.

MONEX 15th Anniversary
1999-2014
BOOK

Special Thanks
（五十音順）

出井伸之 氏
伊藤穰一 氏
加藤丈夫 氏
川本裕子 氏
楠木建 氏
斉藤惇 氏
サンプラザ中野くん 氏
田中仁 氏
羽生善治 氏
Chris Flowers 氏
John Meriwether 氏
Nick Roditi 氏

牧力爾
町田夕子
松岡純也
松崎裕美
森嘉代子
森山智光

Monex Group, Inc.
Kojimachi-odori Building 13F
2-4-1Kojimachi, Chiyoda-ku,
Tokyo 102-0083, Japan

http://www.monexgroup.jp/

Imagine the Future

15

Years Old!